
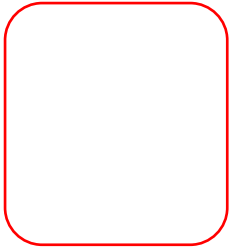


福山市市制施行100周年記念

青年百年



何も無いとは言わせない!  
YOU CAN FIND SOMETHING!  
FUKUYAMA



山本瀧之助研究会

表紙カット  
福山市都市ブランドロゴマーク

裏表紙カット  
福山市市制施行 100 周年記念事業ロゴマーク

## はじめに

2016年（平成28）7月1日は福山市市制施行100周年の記念日です。わたしたち山本瀧之助研究会では、市制100周年記念の協賛行事として、2015年（平成27）には「100年前の青年たちが読んだ雑誌『良民』展」・2016年（平成28）には「青年団100年の歩み展」の巡回パネル展を行いました。

雑誌『良民』は、1911年（明治44）から約9年間、地方青年向けに山本瀧之助が執筆編集したものです。「一日一善」「早起き」「模範日」などをこの雑誌で提言し、彼の知名度を全国的なものにするきっかけとなりました。また、この雑誌の論説欄で青年向けのメッセージを発信しました。

「青年団100年の歩み展」では、明治30年代後半、沼隈郡内の町村では全国に先駆けて青年会を組織し、多方面にわたる活動を行い全国から注目を集め、やがて、全国に青年会(団)の組織が広まってきました。その後、青年団は、歴史の流れに対応しながら様々な活動を行い、今日に至っています。

この冊子『青年百年』は、2回のパネル展の原稿を記録として留めたものです。この冊子が、青年団の歩みを振り返り、青年たちが果たしてきた役割を考え、今後の青年団の在り方について模索する素材として活用されることを期待します。

山本瀧之助研究会

# も く じ

## 百年前の青年たちが読んだ雑誌『良民』展

ボツになりかけた原稿で『良民』発刊	2
雑誌『良民』のめざすもの	3
色刷りの表紙	4
瀧之助からのメッセージⅠ	5
瀧之助からのメッセージⅡ	6
世界の情報に興味津々 — 若者よ 世界は広いぞ —	7
農業に関する豊富な知識と技術情報	8
「一日一善」の実践	9
「一日一善」の広がり	10
「一日一善」国民的運動に	11
全国で早起き	12
模範日の実践	13
若者の心を掴んだ多彩な挿絵	14
『良民』廃刊とその後の瀧之助	16

## 青年団 100 年の歩み展

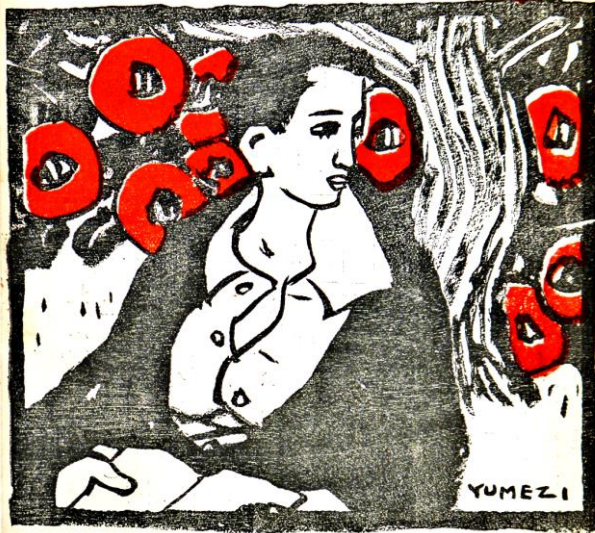
若連中の時代	20
「均しく是れ青年なり」	21
青年会の組織化と青年大会	22
青年会の活動 — 勤労奉仕 —	23
青年会の活動 — 防災 —	24
青年会の活動 — 文化・福祉・その他 —	25
第一回全国青年大会	26
学習する青年たち	27
明治神宮造営奉仕団と日本青年館	28
活動の拠点 倶楽部（クラブ）・青年会館	29
8年ぶりの沼隈郡青年大会	30
戦時下の青年団	31
終戦と青年団	32
戦後の青年団活動	33
アンケートに見る青年団の現状	34

資料	36
----	----

# 100年前 青年たちが「良民」展

誌 雜 關 機 團 年 青 方 地

## 良 民



第 四 卷 第 四 號  
東 京  
良 民 社

「良民」は、明治44年(1911)から9年間、地方の青年向けに出版された雑誌です。福山出身で「青年の父」「青年団の生みの親」と呼ばれた山本瀧之助が編集し、竹久夢二や恩地孝四郎などが挿絵を描いた、青春の夢いっぱい雑誌です。

主 催 山本瀧之助研究会  
後 援 福山市 / 福山市教育委員会  
問 合 せ 南部生涯学習センター  
電 話 084 - 980 - 7713 / 7714

福山市ができた頃

青年たちが

むさぼり読んだ雑誌「良民」.....

誌上には

若者の叫びと輝きが

あふれていました.....

### 会場と日程

- 市役所ロビー  
8月12日(水) ~ 8月24日(月)
- ローズコム1階  
8月26日(水) ~ 9月7日(月)
- 東部市民センター市民サロン  
9月9日(水) ~ 9月23日(水)
- 北部市民センター市民サロン  
9月25日(金) ~ 10月12日(月)
- 新市支所ロビー  
10月14日(水) ~ 10月26日(月)
- 神辺文化会館ロビー  
10月28日(水) ~ 11月10日(火)
- 沼隈図書館企画展示室  
10月28日(火) ~ 11月15日(日)
- 松永支所ロビー  
11月25日(水) ~ 12月2日(水)
- 沼隈支所ロビー  
12月4日(金) ~ 12月14日(月)
- うつみ市民交流センターロビー  
12月16日(水) ~ 12月24日(木)

# ボツになりかけた原稿で『良民』発刊

## 発刊のきっかけは ボツ原稿

地方青年向けの雑誌『良民』は、明治44年（1911）から9年間発刊された。

きっかけは、山本瀧之助が明治43年11月に東京で開かれた講習会を受講した折、井上友一内務参事官から「『青年斯民』という冊子発行の計画があるので、創刊号の原稿を書いておくように」と依頼されたことである。

瀧之助は原稿を書き、指示を待っていたが、出版は見送られた。戸惑い失望したが、東京で洛陽堂という出版業を営む沼隈郡出身の河本亀之助が、月刊誌『良民』として出版を引き受けてくれた。



## 河本亀之助と山本瀧之助

『良民』の出版を引き受けた河本亀之助（1867～1923）は今津村（現福山市今津町）出身で、明治24年（1891）24歳で上京、1年後に「国光社」に入社し、印刷・出版業の第1歩を踏み出す。

明治42年（1909）に独立し、千代田印刷所（のち洛陽堂と改名）を創立。300冊に及ぶ出版をし、無名の篤学の士を多く世に送り出した。竹下夢二の『夢二画集 春の巻』や山本瀧之助の『地方青年団体』などもその一例。

山本瀧之助との関わりは、明治37年（1904）に第2作目の『地方青年』を亀之助が勤める「国光社」から出版したことに始まり、明治42年（1909）『地方青年団体』を洛陽堂から出版、その後、雑誌『良民』や『一日一善』『早起』『模範日』など瀧之助の多くの本を出版することになる。



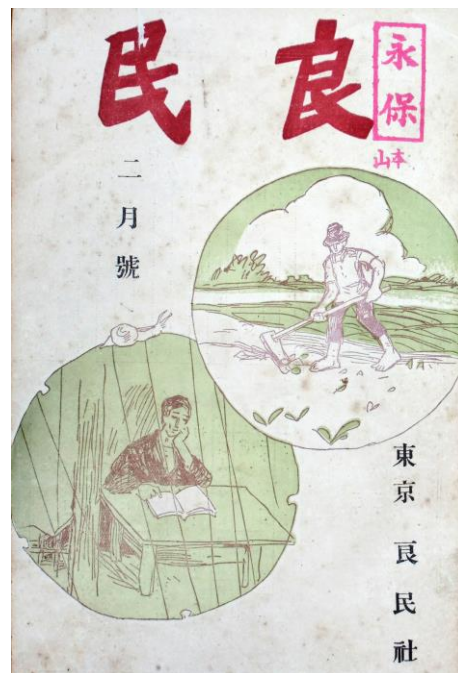
## 月刊誌17年4ヶ月間発刊（その内、1年7ヵ月間は2種類の月刊誌発刊）

瀧之助は明治35年（1902）8月から約10年間『吉備時報』を発行、青年に関する自分の考えを次々と発表した。この雑誌は、原稿書き、編集、印刷費の捻出のための広告取りなど全て一人で受け持った。こうした多忙の中、新たに『良民』を発行することは大変だったに違いない。2種類の月刊誌を1年7ヶ月間続けられたのは、青年活動に対する湧き出るような情熱があったからであろう。

# 雑誌『良民』のめざすもの

## 雑誌名『良民』とは

創刊号の発刊の辞で「従来の青年雑誌の多くは、名を青年雑誌というも、その実は、学生雑誌たるに過ぎず、特に地方青年のために企てたりと称するものにあっても、なお此の嫌いあるを免れざるがごとし。『良民』はこの欠点を補うが為に創刊した。要するに地方青年自身が手に取って適したものをつくろうとした。」と記している。また、表紙に3月号から「地方青年団機関雑誌」と銘打ち、雑誌の性格を明確にしている。



『良民』創刊号

## 地方青年のための雑誌

この雑誌の創刊号(明治44年2月)に石黒忠憲の「良民になるには、何も学問はいらぬ。家内睦ましくして、正直に真面目に家業に励み、隣同士は助け合い、役場に納めるものは決して怠らないように、議員の選挙などは心に恥じるようなことはせず、それだけの事であるから、心掛け次第では誰にでもできる。」という談話を載せている。

また、おなじ創刊号に、井上内務省参事官の「良村を作れ。青年会を良くするも、町村人を良くするも公共・勤労・共同の精神である。」との談話を載せている。要は、普通の善良な市民を「良民」と呼び、その良民が多くいる村を「良村」と呼んでいる。

## 編集方針

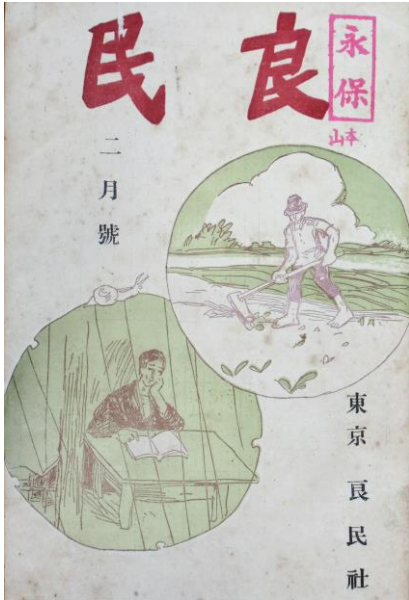
創刊号に書かれた編集方針には「地方青年に対して穏健な知識を授け、実践を指導することを目的とする。」としている。

この方針に従ってその内容は、農業に関すること、世界情勢、国内の動き、各地の青年活動の情報、先人の言葉などを載せている。更に、大正3年(1914)以降は「一日一善」「早起き」「模範日」などに関する内容が増えてくる。

明治44年(1911)12月号に雑誌『良民』の志(こころざし)として「諸君をして根気強い人、理屈より実行の人たらしめん」とし毎号雑誌の冒頭の記事に「実行」の欄を設け瀧之助の考えを載せている。

# 色刷りの表紙

竹久夢二や恩地考四郎の新しい感覚の絵。青年たちの眼にどう写ったのであろうか。



絵：竹久夢二  
 明治44年2月号  
 ~明治45年1月号



絵：竹久夢二  
 明治45年2月号  
 ~大正元年8月号



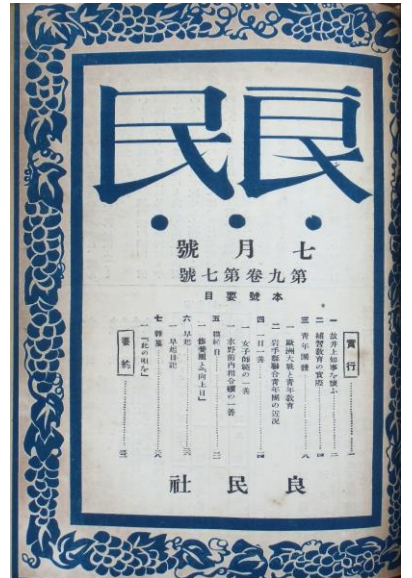
大正元年9月号  
 ~大正元年12月号



大正4年1月号  
 ~大正4年12月号



大正5年1月号  
 ~大正7年12月号



大正8年1月号  
 ~大正8年12月号

※ 無地の表紙 大正2年1月号~大正3年12月号



# 瀧之助からのメッセージ |

『良民』には、毎号の冒頭に「実行」という欄を設け、瀧之助の考えを述べている。その内容は日頃からちょっと心掛けていけるとできる平易な事ばかりである。

そのいくつかを紹介する。

『良民』第5巻1号「実行」欄の目次  
(大正4年1月号)

一 日 一 善 號		本 誌 要 目	
要 約	先づ一日一善を語る	一	第五卷 第一號
	一村總つての一日一善會	二	
	都新聞と一日一善	三	
	一日一善點綴書成る	四	
	懸賞問題と一日一善	五	
	代官の一日一善	六	
	郡役所内の一日一善	七	
	小學生徒の一日一善	八	
	高女の一日一善	九	
	一日一善會現はる	一〇	
	逓信部内一日一善成績	一一	
	女子師範の一日一善	一二	
一日一善獎勵會規程	一三		
大正三年一日一善史	一四		
一善日記用紙	一五		
附録	一六		
目次	一七		

## 年賀状のこと

単に謹賀新年と活版刷りのものならもらわなくてもよい。活版のものなら、一行書き添えてもらいたい。私は未だ活版刷りを用いたことはない。

(大正2年12月号)

## 反省すること

一日に少なくとも一度は省みてみたいものである。こんにち、あらゆる方面を通じて欠乏しているのは、反省するということである。

(大正7年12月号)

## 時間の無駄をなくす

時間を無駄に過ごさないようにするには、心掛けは一つで、つとめて無駄を避ける。無駄話を避けるためには、必要のない限り自分から先に口を出さない。問われた時、要領だけ答える。

(大正6年2月号)

## 遠交近攻(えんこうきんこう) ※

一集落、一村には多少志ある者は少なく、一般からノケ者にされやすい。会合で下座におかれ易い。そんな時、書面上の先輩があつたり、他府県に友人がいたりすると、たとえ冷遇されても心密かに頼れる所があり、慰められ、そのため志は高くなる。遠方に先輩なり友人を作ることは、志ある青年としては一つの心掛けである。

(大正3年1月号)

※ 中国戦国時代の外交政策。「遠い国と親しく交際を結んでおいて、近い国々を攻め取る策」の意

## 瀧之助からのメッセージ Ⅱ

### まだ早いがいつも遅くなる

何事も思いついた時、すぐに行くべし

起きよう 起きようと思う内に朝寝になる

帰ろう 帰ろうと思う内に長座になる

返そう 返そうと思う内に催促があった

始めよう 始めようと思う内に他人が始めた

あまり愚図つくのは、青年男児らしくない。



(明治44年3月号)

### いなかの子はシヨロシヨロしている

いなかの子は、目だるいほど、また、腹が立つほどシヨロシヨロしている。なんとか今のうちに少し早足に歩かせたい。人を追い越すとも、追い越されまいとする意気が大切である。家に入れば一番に障子を開け放つ。「この寒いのに」と炬燵の中からお爺さんに叱られるが、この時ばかりは、叱られるのが得意。

(大正3年2月号)

ふとこで

### 懐手廃止の提案

春には青年団の総会などが開かれるが、その際、読者から「懐手廃止」を提案してもらいたい。精神修養とか身体鍛錬とか抽象的な目標を立てるよりも、こんな身近な事から着手してほしい。

(大正7年12月号)

### 頭をカラにしておく

これは昨年一年間の座右銘であった。頭をカラにするとは、少しでも気に掛かることがあれば、即座にそれを片付けてしまうということである。たとえば、見舞わねばならない病人があれば、思いついた時すぐに見舞うのである。要するに頭の中にワダカマリを持たないということである。頭の中をカラにしようとするなら、決して横着はできない。横着でなすべき事をなさないと、それが気になって頭に残る。また、嘘は決してつかない。嘘をつけば、それが気がかりになり、心配が生じ頭に残る。

(大正8年1月号)

# 世界の情報に興味津々 ―― 若者よ 世界は広いぞ ――

## パナマ運河開通1年早まる 明治47年ごろ ※



北アメリカと南アメリカが、糸のような細い部分でつながっている。ここがパナマである。この細い所に東から西へ運河を掘りぬこうとしている。その長さは約40哩（マイル）。はじめ、フランス人のレセップスが手がけたが失敗、約2億円損失した。その後、アメリカ合衆国が明治37年工事費7億940万円を議会で議決した。一日2万5千人の人夫を使って工事をしている。運河の開通は明治48年1月の予定であったが、1年ぐらい早まるであろう。運河開通によって、太平洋と大西洋が続くことになる。

(明治44年2月号)

## 万国平和会議 オランダ ヘイゲで開かれる

この会議の正式の案内状を受けたのは26ヶ国。我国からは陸軍大佐・海軍大佐・大賀法学博士などが出席した。会議では、ロシアが発案した「軍備拡張制限案」はドイツの反対もあって否決された。他に爆発物を軽気球から投げつけることを見合すことは、各国異議なしで可決した。ダムダム弾という人体に入ったら平らになって容易に取り出せない弾の使用禁止案は、米英の反対で成立しなかった。

(明治44年7月号)

## ハワイの日本人

ハワイ島には、約20万人弱が住み、その内8万人が日本人である。日本人学校の小学校は3校あり郵便局でもどこでも日本字が通じる。八十八箇所のお大師さんもある。(志賀重昂の講演より)

(大正2年10月号)

## アメリカにおける排日問題あれこれ

今やアメリカに住む日本人は約15万人、耕作地は11万3千町歩以上、その内7割強はカルフォルニア州にある。土地所有禁止や排日の声が年々頭を持ち上げている。

(大正2年1月号)

※ 明治47年ではなく大正3年となる。

# 農業に関する豊富な知識と技術情報

## 大きな間違い

「灰を小便でタタムと良く効く」など世間で多くの人が言っているが、これは、大きな間違いである。決して灰と人糞尿を混入したり、同時に施肥したりしてもいけない。混合すると、灰の中のカリと人糞の中の炭酸が結びついて、アンモニアを空気中に逃がしてしまい、肥料としての効力を失う。

(明治44年6月号)

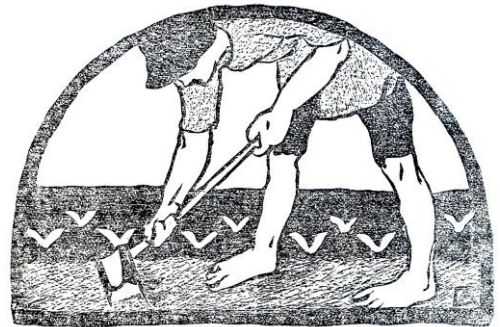
## 稲作の除草の目的は

稲作の除草の目的は、ただ雑草を除くのみではない。

①空気の温度を土中に入れ、肥料の分解を促す

②土を攪拌し、軟らかくし稲の根を伸長さす

そのため、除草は温暖な日を選ぶ。雨中の除草は好ましくない。また、水を落とす（少なくする）こと。良く注意して稗を抜くこと。



(大正2年7月号)

## 米の反収3石の秘訣

実行手段として米作改良14項目を着々と実行する。

例えば、

①共同採種田を設け採種する。

②本田は4寸（約12cm）以上に深耕すること。

③種粃は、塩水選共同をなし、清水に5日間以内浸す。

④開花時には、必ず1寸5分位水を溜めておくよう注意すべし。

⑤肥料は、堆肥を主とし、金肥を補肥とする。また本田といえども追肥をなさず、全部植え付け肥にいたすべし。

など14項目挙げている。

(大正2年7月号)

## 青年会の防霜事業

山形県の青年会では、9月頃より降霜を予想して、松葉のようないぶす物を燃やす事業を実施し、効果を挙げている。報酬を受け、青年会の基本金として貯金している。

(大正2年6月号)

# 「一日一善」の実践

山本瀧之助の『一日一善』の著書（大正2年発行）は24,000部のベストセラーとなった。

その背景には、『良民』に「一日一善」の特集（大正4年1月号）を組んだり、読者からの実践例を載せたり、全国の「一日一善会」の活動状況を載せたりする事があったからである。

『一日一善』が、近代日本人の精神形成の基となったといっても過言ではない。

## 170名の善行くらべ

東京少年団170名が2月10日9時に東京上野公園の西郷隆盛銅像前に集合、正午まで善行くらべを行った。4人一組となって公園及び上野駅広小路方面に散り一善をした。「広小路で老婆さんが電車と自動車との間に入って困っていた。大塚駅まで連れて行ってあげて乗せてあげた。」「公園で石投げをしている者を制止した。」など団長に報告していた。庄司大佐・日野理事などほめ言葉を与え、昼食となった。

（大正7年3月号）

## 愛らしき一善日記抜粋（東京都板橋小学校高等科）

- 隣家の干物が風に飛ばされていたので、掛けておいてあげた。
- お使いの帰りに、火の付いていたタバコの吸殻が落ちていたので、消しておきました。
- お使いに行く途中、道の真ん中に大きな石があったので、脇に寄せておいた。
- 一人の老婆が杖を引きずりながら丸木橋を渡ろうとしていた。なにか危なそうであったので、手を取って渡してあげた。

（大正7年1月号）

## 「一善ジャ 一善ジャ」の声

高等小学校に通う生徒たちが「一善ジャ 一善ジャ」と申しているのので、何かと見ると年寄りが刈り取った稲を荷車に載せて坂道を数名で押し、空車のごとき勢いで走り去った。この光景を一人ほほ笑み、2~3年のうちには立派な青年会員として一善会員になるかと思うと誠に嬉しい。

（大正3年1月号）

# 「一日一善」の広がり

## 「一日一善」永続きする方法

誰もが一度は「一日一善」をきつとやるぞと始めるが、どうも永続きがしない。そこで色々考えた所、別によい考えもなさそうである。ただ、志を同じくする者が集まり、お互いに勢いをつける外はあるまい。つまり、5人なり8人なりの同志をもって「一日一善会」を作るのである。試みに、その規定を作ってみよう。

- |     |  |
|-----|--|
| 第1条 | 一日一善に志ある者をもって 一日一善会と名づく                    |
| 第2条 | 会員は日々他人に対し、世の中に対し、必ず一善を行うものとする             |
| 第3条 | 会員は各自日記帳を付け、日々の一善を書き留めるものとする               |
| 第4条 | 本会は別に一日一善巡回日記簿を作り、順次会員の間を巡回するものとする<br>(中略) |
| 第9条 | 本会は他の一日一善会と気脈を通じるものとする<br>(後略)             |

(大正3年1月号)

## 全国各地で「一日一善」実践

名称	場所	備考
一日一善会	各地	青年会・師範学校など
	各地	企業・官庁・学校など
	秋田県川辺郡	郡役所
	大阪府	大阪府立病院 看護婦
	香川県善通寺	善通寺師団
一村こそって 一日一善	愛知県加茂郡 高橋村	村民全員一善会員 村から一日一善日記を配布 年2回日記帳を集め点検と審査 優良な者は表彰 (大正4年1月号掲載)
一日二善会	広島県沼隈郡 水呑村	<b>自己に対する一善</b> …例えば勤勉・忍耐・勇氣・自己の義務 任務の遂行実施 <b>自己以外に対する一善</b> …家族・友達・社会などの人々など この二つの善を行い自己の向上発展を図る一方で 国家社会に <sup>じんすい</sup> 尽瘁することになり良民となり得る。これを二徳と呼び二徳会を設立「二徳日記」を書いて いる。 (大正4年1月号掲載)

# 「一日一善」国民的運動に

## 一日一善会発会式に瀧之助招かれる

(香川県女子師範学校)

発会式には山本瀧之助と香川県知事が臨席、男爵石黒閣下自筆の「一日一善」の額を掲げ式が行われた。

式に出席した生徒の感想文が掲載されている。その中に「壇に上がられ『山本瀧之助と申します』と言われた時、私は、もう何とも言えない一種の感に打たれた。幾久しく敬愛して止まなかった山本先生が今ここに立っておられる。先生は実に徳の高い方と後



藤校長先生から承っていた。今その先生の前にいる。この瞬間、私はいくらでも感想が沸いてくる。『本校に来たのは初めてであるが、皆さんの一日一善の日記や感想など拝見しているため、もう前からよく知っている方にお目にかかるような感じがします』とおっしゃった時は、万感胸に迫った。あの日記、あの感想、僅かな紙切れであるが、よくよく大切にしよう。……」と綴っている。

(大正4年11月号)

## 『一日一善』の点訳書できる ※

大正3年12月10日 四六二倍版の大部の点訳書が瀧之助に届けられ、新年の床の間に飾った。点訳書ができた経緯は、およそ、次のようなことである。

日露戦争で失明した軍曹吉田悦治郎は失明軍人講習会を卒業後、名古屋で出版業を開業していた。『一日一善』の序文を書かれた石黒男爵に、「盲人用の点訳本を作り座右の友にしたい。著者に承諾いただくようお願いしてほしい。」との手紙が届けられた。男爵からの連絡を受けた私(山本瀧之助)は、快諾の返事を男爵に送った。

(大正4年1月号)

※この点訳書は、現在福山市沼隈図書館(沼隈交流館)の山本瀧之助記念室に展示してある。

# 全国で早起き

山本瀧之助の著書『早起』は、大正7年（1918）に発行され1万部売れた。『良民』では、著書発行以前から早起きに関する記事を連載し、全国的な広がりをもった。

## 目覚めよ若者

- 我が青年団は、一昨年から毎朝早起き奨励のため団員が交代で八幡社の鐘を撞<sup>つ</sup>いている。
- ・満身の力を込めて撞く鐘の響きに、目覚めよ若者
  - ・朝な朝な、わが撞く鐘に、若人の戸開く音聞けば、嬉し。

（大正7年11月号）

## 早起日記抜粋

- 1月4日 朝起き、直ちに両肌を脱ぎ、冷水摩擦をなす。湯気の如くほつほつと立つ心地よさ。  
1月8日 6時に起きた。すぐ雪隠。井戸に行く。お天気は非常によい。南窓の下で経文を読む。  
6月22日 午前4時 青年会の起床時報の鐘が鳴った。手早く野良着に着替え、田仕事をする。

（大正2年3月号・4月号・6月号）

## 勤労と朝起き

朝起きは、学問をする上でも、仕事をする上でも大切である。古来、貧しさから身を起ここして大企業家になったり、富豪となり、あるいは先達となった人に、朝寝をした人は一人もいない。

（大正5年5月号）

## 早起きの三徳

- 1、精神が爽やかである
- 2、朝飯がうまい
- 3、仕事が良くできる

以上の三徳あるにも関わらず、人は、兎角朝寝坊をしたがる。人は一体損得を眼中に置いていないのであろうか。



（大正6年10月号）

## 早起きと家庭教育（香川県立女子師範校長 後藤静香の講演）

意志の強い人でなければ何事も成し遂げることはできない。家庭教育では意志の教育を尊重しなければならない。偉人は、全て家庭教育によってつくられた。いかに愛情あふれる家庭も、もし意志の教育を怠るなら、社会の荒波と戦う勇士をつくることはできない。

意志の教育はこの点、早起き主義が最もよい。

**家庭教育の第一の条件は、早起きの家風を作る事である。**

（大正7年3月号）

## 幼いエジソンへの父のことば

早寝・早起きは人間の健康の基である。また、富貴を与えるものである。日中、いかに労働するも、十分の睡眠をすれば必ず体力は回復する。また、早朝の新鮮な空気ほど人の元気を鼓舞し、人に活動力と精力を与えるものはない。

（大正7年3月号）



# 模範日の実践

『模範日』の出版は大正6年(1916)5月であるが、それを遡ること5年、雑誌『良民』に「模範日日記」についての記事を掲載、大正5年(1915)1月には「模範日特集号」を組んでいる。

## 模範日の由来

模範日とは、1日とか15日とかいう風に予め日を定め、その日は、いつもより早く起き、いつもより遅く寝て、終日心を引き締めて落ち度なく立ち回り、当日は一日最も理想的に、最も充実した日たらしめよう。

「今日こそは、真に立派な日であった。」「今日一日だけは決して恥じない。」ひと月の中で自ら模範となるよう有らしめたい。

(大正5年1月号)



## 模範日の意義

「模範日」という念入りの一日を作ってみると、明日は「模範日」であるようにという風に、心を引き締めてかかる。その一日で得た働きぶりなり、心持ちなりが、知らず識らずの間に、後々の日にも自から影響するものである。

(大正5年1月号)

## 模範日日記

7月13日 (伊藤清助の日記より)

目が覚めるとすぐ飛び起きた。いつもより早く起きたことを喜ぶ。それから寝るまで、時間を無駄につかわないようにしたことを心ひそかに誇りとする。

いつもしたいと思ったことを、どしどしやっていく。この間から気に掛かっていたごみをすっかり焼いた。荷車に今日も材木を2本余計に積んで力をだし、汗を出した。おかげで、2銭だけ平日より多く賃を得た。寝る前に、『良民』を一冊読んでしまった。

<感想>

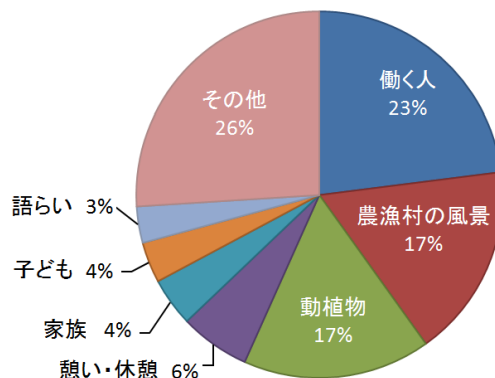
爽快を感じた。何となく心の張ったようで、大切な一日を通り越した。日は更に、更に。

(大正6年1月号)

# 若者の心を掴んだ多彩な挿絵

月刊誌『良民』には、9年間107冊に529点の挿絵が載せられている。その絵のモチーフは多彩で「働く人」「農漁村風景」「動植物」などで、続いて「憩い・休憩」「家族」「子ども」「語らい」などである。他に「東京名所」などのシリーズ物や木版画で表現した抽象画などが目をひく。

作者は、ほとんどが不明だが、中には竹久夢二の作品の10点があり、他に恩地考四郎をはじめ、夢二を慕って集まった若い作家たちの作品が多くある。



明治45年2月号  
作者 竹久夢二



明治44年11月号  
作者 竹久夢二



大正3年5月号  
作者 恩地考四郎



大正4年7月号



明治45年10月号



大正2年8月号



明治45年4月号



大正5年6月号



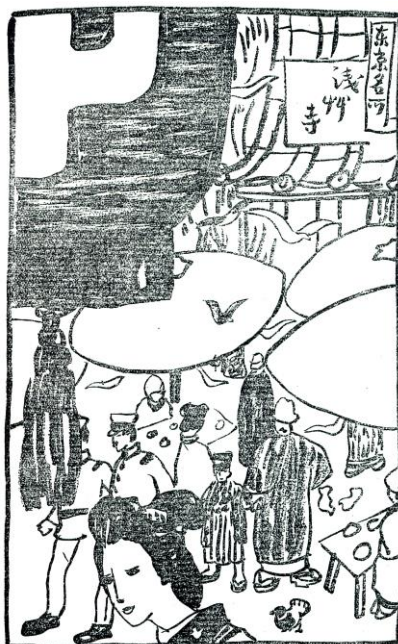
大正2年2月号



大正5年8月号



明治45年3月号



大正2年12月号



大正3年5月号



明治45年7月号



大正3年1月号

# 『良民』廃刊とその後の瀧之助

## 雑誌『良民』の廃刊

生家より寄贈された『良民』は全部で107冊ある。1巻～4巻は2年間で1冊に製本され、5巻～9巻は1年ごとに製本されている。その最終は9巻12号（大正8年12月号）であるが、これが最終号であることを誌上で何ら触れられていない。瀧之助の性格からすると、最終号ならその旨を断るはずである。

そのあたりのことを探るため『良民』を読み直してみると、9巻3号（大正8年3月号）に「本誌近頃遅刊に相成り候、活版所の申し訳を聞けば無理ならぬように思い候…」、9巻10号には「弊誌近頃再び遅配勝ちに相成り…」とある。10号の遅配は、大正8年（1919）メーデーが始まり、厳しい経営環境の中、洛陽堂社長の河本亀之助が病に臥し、翌年には54才で亡くなっていることによるものか。収支の合わぬ『良民』の出版を永年支えてくれた洛陽堂のこの辺りの事情が、終刊への要因となったと思える。また、発刊に関わった井上友一の急逝も遠因となったと考えられる。

ただ、大正9年の瀧之助の日記を読んでも、「良民の配置を考える」（4月5日）「明日良民原稿専念のこと」（4月7日）と書いている。まだ、この時点では『良民』の発刊を模索しているが、次第に発刊の意欲が薄れ、9巻12号が最終号となったと考えられる。

## 廃刊後の瀧之助

『良民』が廃刊となった翌年、大正9年（1920）の瀧之助は、弱気、あきらめ、あせり、不安な日々を送っている。日記には「意気消沈気味、形勢下り坂、郡立学校不振、思想理解できず。実行衰える。信念定まらず。」（3月20日）「昨今追々時世にフリ離される心地。新思想分からず。」（4月9日）「神経ヘンナリ」「神経衰弱ナリ」などの言葉が、4月5日、5月7日・17日・19日などの日記に見られる。「新思想」とは「デモクラシー」のこと。時代の変化についていけないあせりや葛藤が読み取れる。

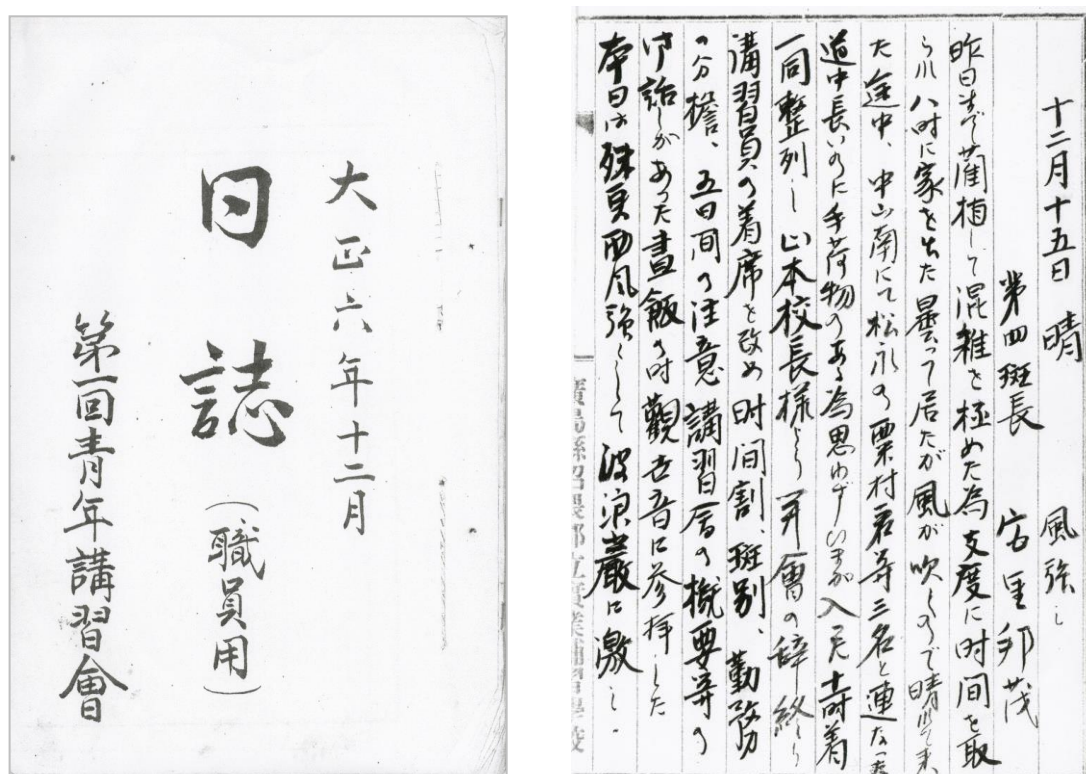
ところが、その年の5月下旬になると、体調も良くなったとみえ、6月5日から東京・東北地方・静岡・名古屋を巡る12日間の旅に出かけ、講習会や田中大臣・石黒忠憲などの要人や同志に会うなど精力的に行動している。帰郷後も、郡立実業補習学校の授業や一夜講習、沼隈郡の青年団の会合に出席するなど多忙な日々を送っている。

## 瀧之助 次の活動を目指して

瀧之助はかねてより準備を進めていた「優良児童後始末の専門家」（大正8年5月15日の日記）となるためのリーダー養成の講習会の開設準備に着手した。

この件に関しては、すでに大正6年（1917）と同7年に、千年村阿伏兎磐台寺と熊野村常国寺でそれぞれ5日間の実験的な宿泊講習会を行っている。大正10年（1921）4月、瀧之助は沼隈郡立実業補習学校学校長を退職すると、講習会開設の本格的な準備を始めた。翌年1月から阿武福山市長や深瀬沼隈郡長・末久師範高等女学校長などから意見を聞き、同年12月全国巡回青年講習会の構想を固めた。

大正13年（1924）になると、福山義倉財団からの経費200円の補助や大阪毎日新聞社に支援を依頼するなど、準備万端整え、その年の2月7日からの10日間、福山市北吉津町胎蔵寺で第1回全国巡回青年講習会を開いた。その後、6年間120回、全国を巡回する講習を行い、講師として出向いて行った。これが、瀧之助晩年の大事業となった。



『良民』廃刊2年前の大正6年（1917）12月に山本瀧之助晩年の活動となる宿泊をとまなう青年講習会の実験的講習会を始めている。

大正6年12月15日から19日まで千年村（現沼隈町）能登原、磐台寺で行い、その記録が残されている。日記（職員用）、日記（生徒用）炊事日記、会計記録の4点が残っている。提示資料は日記（職員用）と日記（生徒用）の1ページ目である。これによって講習会の全容を知ることができる。

## 巡回パネル展のスナップ



新市支所ロビー



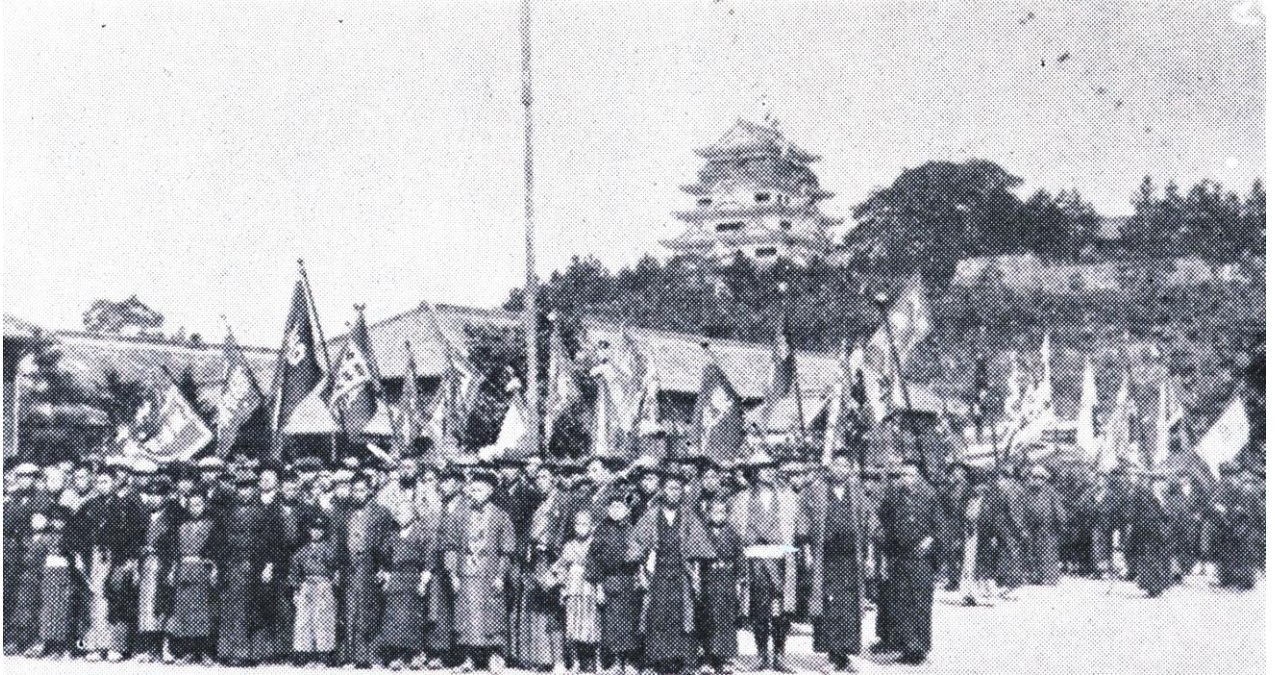
ローズコム1階エントランス



日本青年団協議会が展示会場を視察

神辺文化会館ロビー

# 青年団100年の歩み展



会場と日程

福山市が生まれた頃  
青年団に結集し  
切磋琢磨した  
青年たちの足跡は  
今を生きる 私たちへの  
メッセージです

主催 山本瀧之助研究会  
南部生涯学習センター  
問い合わせ 南部生涯学習センター  
電話 084 - 980 - 7713 / 7714

- 市役所ロビー  
6月 21日(火) ~ 7月 3日(日)
- ローズコム1階  
7月 6日(木) ~ 7月 18日(月)
- 新市支所  
7月 20日(水) ~ 7月 28日(木)
- 神辺文化会館  
7月 30日(土) ~ 8月 18日(木)
- 西部市民センター  
8月 20日(土) ~ 8月 28日(日)
- 東部市民センター  
8月 30日(火) ~ 9月 11日(日)
- 北部市民センター  
9月 13日(火) ~ 9月 25日(日)
- 沼隈支所  
9月 27日(火) ~ 10月 17日(月)
- 沼隈図書館  
10月 19日(水) ~ 11月 7日(月)
- うつみ市民交流センター  
11月 9日(水) ~ 11月 21日(月)

※ 開催時間はそれぞれの施設の開館時間内です。

# 若連中の時代

明治 20 年代までの若者は、尋常小学校を卒業すると若連中と呼ばれる集団に入り、村の祭りの取り仕切り・伝統芸能での役割などを担うこともあった。一方で、村の暮らしに夢や希望の持てない若者たちは退廃的な生活を送らざるを得なかった。

## 未成年での飲酒・喫煙・ばくち

明治になり、地方自治制度が次第に整備されると、若者の役割が徐々に縮小された。若者は、娯楽が少なく無気力な日々を送り、退廃的な行動に陥った。



## 若連中によるはね踊り

農村では、古くから雨乞い・虫送りなどの願いを込めて伝統芸能を行った。この絵は、沼隈町能登原の祭りに使う灯明台（テンビンという）の飾りにあるもの。



明治 2 年（1869）製作

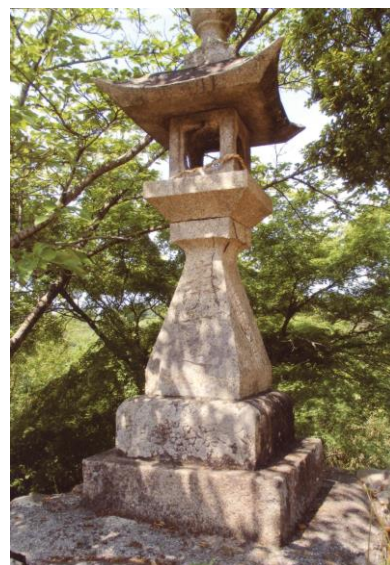


### ◀ 津之郷惣堂神社の力石

「本谷下 若連中」と刻む。  
この石は、若者たちの力だめしに使われたもの。

### 若連中寄進の燈籠 ▶

沼隈町上山南水落 良神社に天保 12 年（1831）奉納されたもの。神社の祭礼では若者が御輿を担ぐなど大切な役割を果たした。





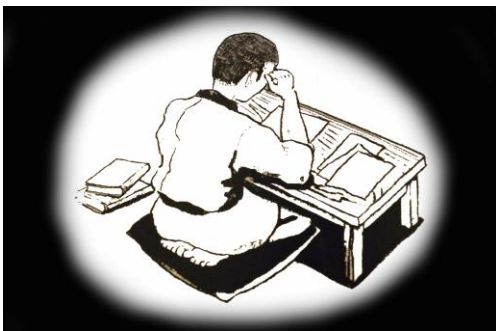
# 「均しく是れ青年なり」

都会に住む学生・書生のみを「青年」と呼び、「若者」「若連中」と呼ばれた田舎に住む若者は、社会から見捨てられ、無気力な日々を送っていた。

この不合理に早くから気付いた沼隈郡千年村草深（現福山市沼隈町）の青年教師・山本瀧之助は、明治29年（1896）『田舎青年』の本を自費出版し「都会に住もうが田舎に住もうが若者は全て青年である」と訴え「青年会（団）<sup>（注）</sup>を作り、その中で切磋琢磨することが大切である」と訴えた。この本は、後に、青年団活動のバイブルであると高く評価されるようになった。

## 『田舎青年』執筆に悩む瀧之助

無気力な日々を送る若者たちの生活を目にした山本瀧之助は、22歳の時、夢と希望を持たせようと、『田舎青年』を執筆した。



## 山本瀧之助



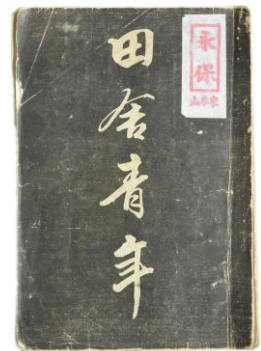
## 『田舎青年』冒頭の文章

**田舎青年**  
均しく是れ青年なり、而して一は懷中に抱かれ一は路傍に棄てられる、所謂田舎青年とは路傍に棄てられたる青年にして、更に之を云へば田舎に住める学校の肩書き無く卒業證書なき青年なり、学生書生にあらざる青年なり、全国の大部分を占めながら、今や殆ど度外に見られ、論外に釋たる青年なり。

学生・書生のみを「青年」と呼ぶ不合理を指摘し、田舎に住む若者も「青年」とであると訴えた。この考えは、当時としては大変進歩的な考え方だった。

## 『田舎青年』の表紙

「出版の見通しがついた」との手紙を手にした瀧之助は「余りの嬉しさに弁当を忘れ、手紙をひもとくこと4度なり」と日記に記している。



田舎青年 目次

田舎青年

田舎青年の覚悟

当今田舎青年の墮落並に

其救済法

田舎青年旅の用意

健康の功要

田舎青年勃起策

赤心を推して田舎青年諸君の腹上に置く

（注）「青年会」は、大正4年（1915）の内務省・文部省令により、「青年団」と呼ぶようになり、団長は団員から選出するようになった。

# 青年会の組織化と青年大会

広島県沼隈郡（現福山市南部・西部地域）は、先覚者山本瀧之助や高島平三郎の指導と、沼隈郡長阿武信一の理解と支援によって早くから青年の組織化が行われ、日本における青年団体の先進的な地域となった。明治 36 年（1903）以降、沼隈郡の各町村で村単位の青年会が組織され、明治 40 年（1907）6 月には第 1 回沼隈郡青年大会が開かれた。こうした青年の組織化は、やがて広島県内や全国へと広がった。

## 雑誌『日本人』

青年会が組織化される以前、瀧之助が所属する若者グループ「教育談話会」のメンバーたちが回し読みをした雑誌。



## 阿武信一

（あんのしんいち）

沼隈郡長。瀧之助のよき理解者であり、支援者であった。郡長退職後の大正 5 年（1916）に、初代福山市長になった。



## 青年会・処女会の結成

年	できごと
明治 21 年（1888）	神村須江の若者 5 人で青年共進社を結成（高島平三郎の教えを受けた若者たち）
明治 23 年（1890）	千年村に教育談話会（後の好友会）結成
明治 27 年（1894） 4 月	山本瀧之助の指導により千年少年会設立
明治 36 年（1903） 10 月	千年村青年連合会設立
明治 39 年（1906）	田島村高島処女会設立 常石少女会設立 能登原処女会設立
明治 40 年（1907） 6 月	第 1 回沼隈郡青年大会開催
明治 41 年（1908）	大津野村処女会設立
明治 43 年（1910）	福山町第 1 回青年大会
大正 11 年（1922）	沼隈郡連合処女会設立 深安郡連合処女会設立

## 第 1 回沼隈郡青年大会



明治 36 年～40 年（1903～1907）にかけて、沼隈郡の全ての町村で青年会が組織された。

明治 40 年（1907）6 月、第 1 回青年大会が今津川原で開かれ約 1 万人が集まった。

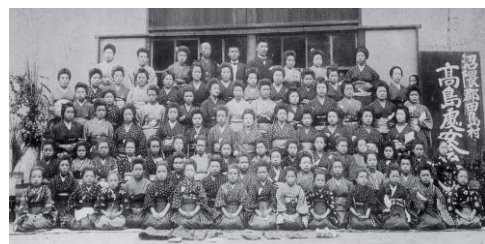
## 福山町青年大会

明治 43 年（1910）



## 田島村高島処女会

写真は、大正時代

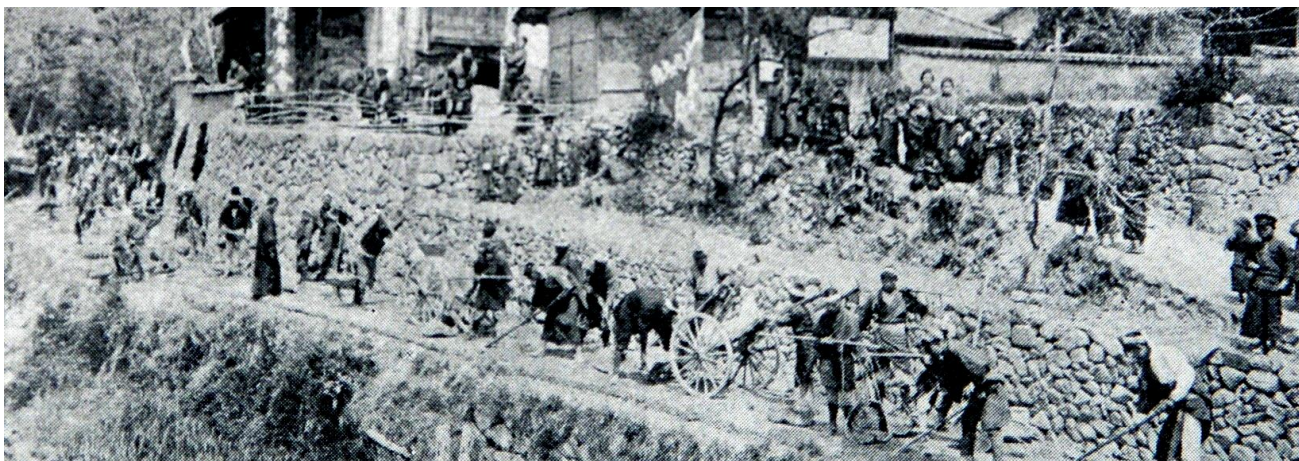


# 青年会の活動 — 勤労奉仕 —

明治 22 年（1889）市町村制が施行され、役場を中心に行政が整備されるが、手の届きにくい分野もあり、村民は大変困っていた。

各村々に青年会が結成されると、青年たちは労力を惜しまず幅広い活動を手がけた。これまでの若連中の暮らしぶりとは打って変わり、目を見張るものがあり、地域の人々に大変喜ばれた。

## 村道改修作業



勤労奉仕による村道改修作業・沼隈郡山手村青年会

明治時代

## 荒地開墾作業



開墾して水田化する工事・沼隈郡熊野青年会

明治時代

## 小学校の敷地造成作業



沼隈郡津之郷小学校新築に伴う地ならし作業  
津之郷村青年会

明治時代

## 村道改修工事



沼隈郡赤坂村鈴池に至る谷間の村道改修作業  
沼隈郡赤坂村青年会

明治時代

# 青年会の活動 — 防災 —

明治の青年会の活動の中で特に目を引くものに防災活動がある。消火活動・遭難船救助活動・砂防工事（植林）などである。現在では行政が担っているこうした活動を、青年会が一手に引き受け行った。

こうした青年会の幅広い活動は、山本瀧之助の『一荷合力』（いっかこうろく）の心をもって青年会の活動を行おう」との呼びかけに応じたことが大きく影響している。

## 消防ポンプ購入



沼隈郡千年村西部（常石）青年会

明治時代

## 遭難船救助訓練



沼隈郡走島村青年会

明治時代

## 治水のための植林



大規模な砂防工事・沼隈郡山南村青年会  
極隈支部

明治時代

## 津之郷澤田池改修工事



堤防決壊に伴う改修工事・沼隈郡津之郷村  
消防団・青年団

大正12年（1923）

# 青年会の活動

— 文化・福祉・その他 —

現在各地で行われている敬老会は、青年会が行った「養老会」にルーツがあるといえる。青年会が主催する養老会が沼隈郡内に広まり、現代の敬老会に引き継がれた。

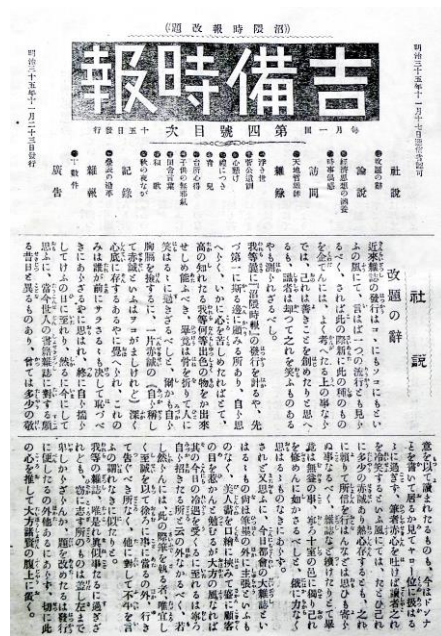
山本瀧之助が執筆した『吉備時報』や『良民』は、青年向けの雑誌として発刊され、青年たちの情報誌として愛読された。また、青年会（団）が主催する講演会や展覧会なども各地で開かれ文化活動も盛んに行われた。青年会や青年団が設置した道しるべも各地に残されている。

## 養老会

養老会とは、現代の敬老会のことである。瀧之助の日記によると、「明治 39 年（1906）千年村常石、宝田院に老人を集め、子どもの遊戯などを見てもらい、その後、茶菓をふるまい青年会と談話をした」とある。

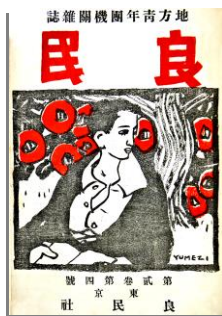


## 青年の情報誌『吉備時報』



## 地方青年向けの雑誌『良民』

明治 44 年（1911）から 9 年間、瀧之助が編集・執筆した雑誌。青年としての自覚や青年会の活動、「一日一善」や「早起」などの修養についての記事が掲載されている。



山本瀧之助が執筆・編集した。明治 35 年（1902）から 10 年間、月 1 回発行した雑誌。印刷費は瀧之助が自ら集めた広告代で充てられ、購読料は無料であった。

## 青年団設置の道しるべ



県道 72 号線の瀬戸町と熊野町の境界（カンカン石峠）にある道しるべ。熊野村青年団が設置。

大正 15 年（1926）

## 能登原での講演会と展覧会



この処女会は明治 39 年（1906）結成。会が主催した講演会・展覧会には、一般の人々もたくさん参加した。

大正 10 年（1943）

# 第一回全国青年大会

日本で初めての全国青年大会は、明治 43 年（1910）に名古屋で開催された。これは、瀧之助と愛知の指導者である愛知農林学校長の山崎延吉が度々の緊密な連絡を取りながら成功させたものである。なお、名古屋新聞が社説に「異彩を放てる沼隈郡青年団」の記事を掲載している。

## 松永駅で記念写真

明治 43 年（1910）年 4 月 24 日沼隈郡から参加した青年たちは、松永駅から臨時列車で名古屋に向った。

青年たちの服装は、着物に脚絆・草履。その中で洋服姿に山高帽の人物が、団長を勤めた沼隈郡長の阿武信一である。

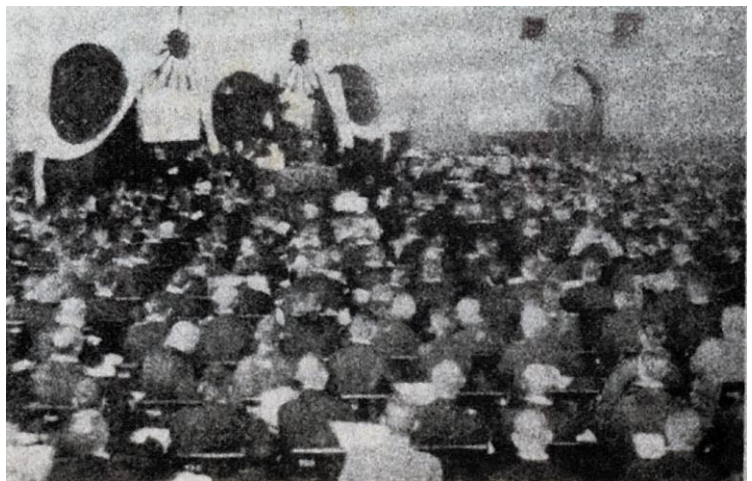


## 全国青年大会の会場

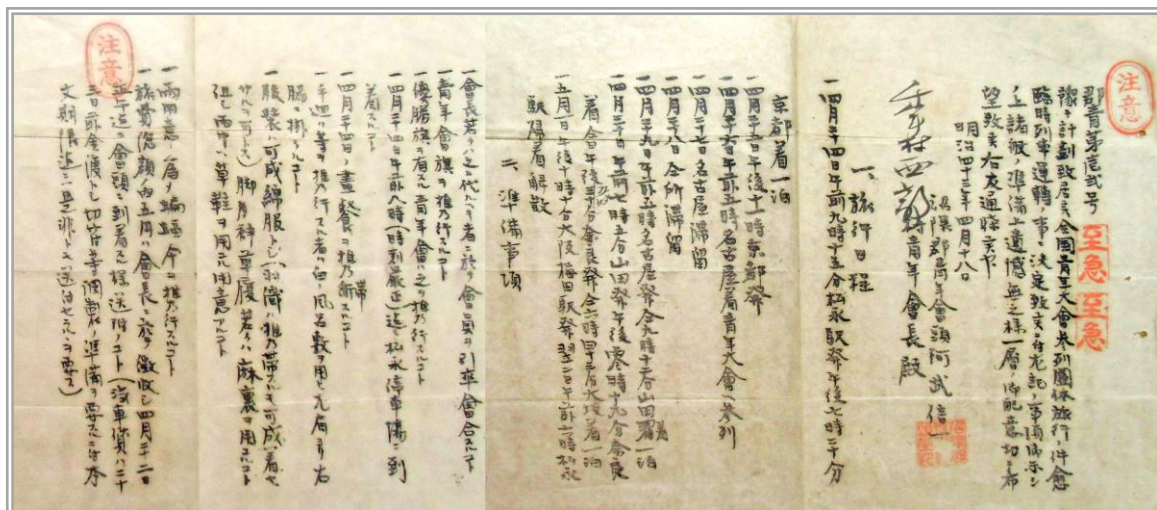
第 1 回全国青年大会は、東本願寺名古屋別院を会場に開催された。

参加者約 2、000 人の内、沼隈郡からは 412 人の青年が参加した。

大会では、山本瀧之助の長年にわたる青年指導の功績が司会者山崎延吉によって紹介され、会場から大きな拍手が起こった。



## 大会開催の案内状



沼隈郡青年会会頭から千年村西部青年会長宛て

# 学習する青年たち

「学び続けたら君たちの人生は輝く」これは、山本瀧之助のことばである。青年団活動の先進地広島県沼隈郡（現福山市南西部）では、明治 30 年代（1897）からお寺や学校を会場に上級学校に進学できなかった青年たちが学ぶ夜学会が開かれた。この夜学会は、やがて郡立実業補修学校として郡内の村々で開かれるようになった。

大正になると各地で講習会が開かれるようになる。特に、先憂会主催の天幕講習会<sup>(注)</sup>（3回）や瀧之助が開設した「全国巡回青年講習所」（6年間 120回）は、青年指導者養成のための宿泊体験講習会で、注目すべき講習会である。

## 青年夜学会



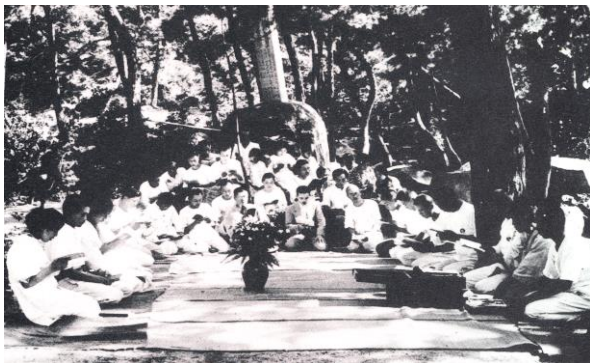
竹久夢二 画

## 大津野村女子青年団の講習会 大正 15 年(1925)



白詰襟 3 人が講師。中央に山本瀧之助

## 坪生青年団の林間研修会 昭和 5 年(1930)



## 鞆・仙酔島での天幕講習会 大正 11 年 (1922)



## 先憂会主催天幕講習会の実績

回	実施年・月・日	会場	人数	備考
1	大正 9 年 (1920) 8 月 28 日～4 日間	熊ヶ峰山腹	男子 79 名	講師は修養団本部幹事・広島師範学校長・山本瀧之助、外 5 名
2	大正 10 年 (1921) 7 月 29 日～4 日間	内海町 (田島) 大浦海岸	男子 128 名 女子 40 名	この年より女子も参加。講師に法学博士山下義信を迎え、婦人問題や人生問題の講座を開催。講師 11 名。他に音楽演奏会や現地研修会を実施。
3	大正 11 年 (1922) 8 月 1 日～4 日間	鞆町城山 仙酔島	男子 114 名 女子 21 名	講師に大日本青年団理事長田沢義舗、外 15 名。講習のほか水泳や現地研修なども取り入れている。

<sup>(注)</sup> 天幕講習会は修養団が大正 8 年 (1919) から全国規模ではじめた青年指導者講習会で、テント生活をしながら肉体と精神を鍛錬した。その地方版として福山地方では 3 回開催された。瀧之助が修養団主催の講習会で講師を勤めたことから福山地方で早くから行われたと考えられる。

# 明治神宮造営奉仕団と日本青年会館

明治神宮は大正4年(1915)に起工式が行われたが、第1次世界大戦の勃発による物価の急騰によって造営が困難となった。そこで、明治神宮造営局総務課長に就任した田沢義鋪(たざわよしはる)が青年団による明治神宮造営奉仕を提案し、全国から奉仕団が集められた。

この奉仕は単なる労力提供だけでなく、土木作業の合間に東京見物をしたり、夜間は講師による講話があるなど、宿泊講習会的な要素も含まれていた。

## 田沢義鋪

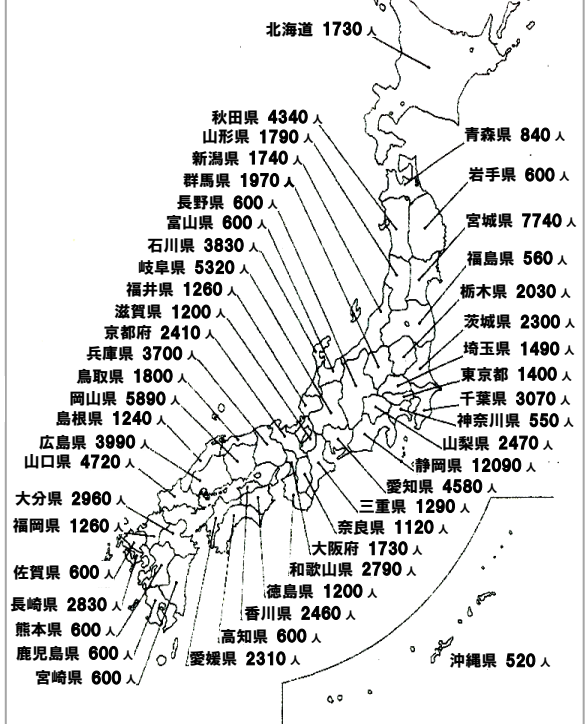


## 明治神宮造営沼隈郡奉仕団



後に大日本青年団 沼隈郡から、70人の青年が大正9年(1920)9月21日から10日間、奉仕に参加。理事長を務める。

## 明治神宮造営 青年奉仕団県別人数



## 日本青年館の建設

造営の内容は、神宮内苑(本殿とそれを囲む森)と外苑(スポーツや文化施設とそれを囲む森)があり、日本青年館は、外苑の一角に建設された。

日本青年館は、大正9年(1920)11月に建設の議が起こり、大正14年(1925)に完成。総工事費は162万円で地下1階地上4階であった。



全国青年、一人一円募金による建設

## 日本青年館で講義する瀧之助

大正14年(1925)10月17日から4日間、第20回全国青年巡回講習会を開館直前の日本青年館で開催した。





# 活動の拠点 倶楽部(クラブ)・青年会館

倶楽部(クラブ)とは、青年たちの娯楽の場・青年たちの話し合いの場・活動の場・青年文庫の保管の場などとして集落ごとに設けられた施設である。神社の拝殿や消防器庫に併設するケースが多く、学校やお寺などを借りて活動する場合もあった。

青年会館は、大字や村単位での青年たちが集まる場所として設けられた施設である。瀧之助は、明治 42 年(1909)に著した『地方青年団体』の中で倶楽部の必要性を説いている。

倶楽部や青年会館は明治から昭和 30 年代(1955~1964)まで長きにわたって青年団活動の重要な施設として利用された。現在も、地域の集会所として「クラブ」の名称が残されているものもある。

## 沼隈郡山南村八日谷倶楽部



青年団の活動の拠点として荒神社の拝殿が倶楽部として利用された。建物は昭和 9 年(1934)に建設されたもので、現存している。

## 沼隈郡熊野村下組青年会館



大正時代に建てられたもの。現在同じ場所に 3 代目の建物が地区の集会所として利用されている。

## 福山町野上村古地青年会館



大正 2 年(1913)に落成した。建物は現存しない。

## 沼隈郡千年村常石青年会館



昭和 6 年(1931)に落成した青年会館を戦後間もない昭和 21 年(1946)改修復旧した。その時の写真である。平成 17 年(2005)取り壊され現存しない。

# 8年ぶりの沼隈郡青年大会

青年団活動の先進地として知られる沼隈郡の青年団も、大正中期になると活動がマンネリ化し形式化した。郡青年大会への参加も減少し、大正12年(1923)を最後にしばらく中断した。それに加え、郡制度・郡役所の廃止が決まると活動はますます低迷してきた。

こうした状況を打開しようと、昭和4年(1929)頃から沼隈郡青年団改善実行委員会が結成され議論を経た後、改善に関する建議書を郡青年団長に提出した。郡青年団の代議員会議でそれを了承し、会則の改正をはじめ様々な改革が行われた。

そして昭和6年(1931)5月5日、8年ぶりの沼隈郡青年大会が盛大に開かれ、観衆も含め1万人を超える青年が集った。

## 8年ぶりの青年大会の新聞記事

### 観衆一萬人

#### 更生沼隈郡青年大会

##### 五日今津嶺で開會す

更生せる沼隈郡青年大会は春陽麗かに晴れ渡つた五日午前八時今津嶺集合観衆數千人に開まれたる三十ヶ町村青年團は先頭に夫々團旗を樹立して整列し九時一發の煙火を合圖に來賓入場式は若が代合唱に始まり教育勸導連合會是讃がありつて縣議(含青年團長)の告辭(野平主事代讀)郡青年團長(篠原福國長)謝詞ありて左記團長の表彰があつた

五年達成績表彰  
 神村青年團 精神修養に關する各種の施設及補習學校設置優良  
 赤坂村青年團 青年訓練所並に補習學校設置優良  
 瀬戸村青年團 山南村青年團 公民學校進出に努力し各自治的活動  
 篠野村青年團 修養に努め道路の修理貯金銀行の貯蓄努力を奉仕して青年會館を建築す  
 同團體表彰  
 一等(七團) 東村青年團  
 二等(五團) 瀬戸村青年團  
 浦崎村青年團  
 三等(三團)

次いで來賓若原縣議(前縣議)丸山郷吉氏宮澤代議士河本真部町村長會長岡本沼隈農學校長郡青年團改善実行委員代表安部吉吉氏の祝辭作田代議士其他の祝辭電報を披露し橋本村青年團長の答辭ありて若原理事より會計會報告を爲し團歌(貴く生心)を合唱し若原勸導連合分隊式があり午後一時より山南村青年團員の豪壯なる沼隈嶺に海邊を往遊させ自轉車競走(距九處走)鐵道柔道、銃槍相撲今津町長波青年團の假裝行列等の餘興隨所に行はれ入出は刻々増加して午後二時頃には一万に近い入出を見た。此日主なる來賓前田諸氏の外、遠近松本高等女學校長、幸川松永團長、大本縣會議長、高橋縣合分會長、各小學校長、新聞記者等數十名にて五時終會裡に散會した

## 改革案の概要

事業部名	内 容	
修養部	講習會 7回	幹部講習會 1回
文芸部	機関誌 2回	新聞発行 2回
実務部	視察旅行 3回	農業調査 4回
	諸統計表製作	貯蓄の奨励
娯楽部	地方民謡・地方踊(沼隈踊り・盆踊り)などの奨励	
体育部	陸上競技大会の開催	2回

## 青年大会の様子



アトラクション(沼隈踊り)



アトラクション(剣道大会)

## 『沼隈青年』機関誌 第1号

昭和7年(1932)  
5月20日発行



# 戦時下の青年団

昭和 12 年（1937）瀧溝橋事件に端を発した日中戦争が勃発すると国内は急速に戦時下となった。昭和 14 年（1939）には、青年学校が義務制とされ、12 歳から 19 歳までの男子に一貫して産業教育と軍事訓練が行われた。

国内の食糧不足の解決策として満州への移民が開始され、昭和 11 年（1936）広島県は満州広島村を目指し、大量の移民を送り出した。一般移民 8000 人あまり、満州開拓青少年義勇軍（隊）4400 人余りに及んだ。この義勇軍は、16 歳から 19 歳までの少年男子を団体で満州に渡らせ、開拓や満州鉄道建設・軍事訓練などをさせた。福山地方からは昭和 13（1938）年から 5 回にわたり派遣され、総数は 1500 人にのぼるとされている。昭和 20 年（1945）に終戦直前のソ連軍の侵攻で死亡した人や行方不明になった人も多く、悲惨な結末となった。徴兵や開拓義勇軍として若者が次々と故郷を離れ青年団の活動は、事実上できなくなった。

昭和 16 年（1941）青年団と少年団は統合され、大日本青少年団と名称を変え、国防婦人会や学校・農会などと共に多方面にわたる銃後の活動を行うようになった。

## 満州開拓青少年義勇軍募集ポスター



満州開拓青少年義勇隊員募集ポスター

## 義勇軍の現地での作業



## 縄 1,000 束達成記念



縄は建物疎開などに使用 昭和 20 年（1945）

## バケツリレーの訓練



婦人会・女子青年団による 昭和 18 年（1943）

## 戦勝祈願はねおどり



本来雨乞いや虫送りのために踊られた。若者（男子）が少なく、学童が加わる。 昭和 18 年（1943）

# 終戦と青年団

昭和 20 年（1945）終戦によって軍隊や外地、そして工場に動員されていた若者たちが帰ってきたが、虚脱感と開放感の入り混じった複雑な気持ちで、何も手につかなかった。また、町や村に帰ってきた若者は、すぐとけ込むこともできず、戦争で中断した青年団活動は足踏みの状況であった。

こうした状況を打開したのが、田舎芝居やレコードに合せての任侠もの踊りを内容とした演芸会だった。これを観る住民にも戦時中の重圧感からの開放感を味わうことができた。

この活動を基に、市町村単位の活動が復活した。民主主義の学習と普及・生活改善・演芸会・運動会・弁論大会・地域の伝統行事の継承活動などが行われた。これらの活動は、集落のクラブや地域にある青年会館を拠点に行われた。

## 内海町横島の平和の塔



昭和 5 年（1930）に設置された時計台を、昭和 24 年（1949）青年団有志によって再建し「平和塔」と命名した。

## すみれ楽団結成



沼隈郡千年村能登原の青年団有志は、昭和 22 年（1947）楽団を結成し活動した。

## 田舎芝居



沼隈郡山南村菅野青年団 昭和 20 年代

## 青年学級でのフォークダンス講習会



深安郡市村青年団 昭和 20 年代

# 戦後の青年団活動

福山市では、戦後間もなく福山市青年連盟が結成され、各町の青年団が参加して活動をはじめた。主な活動は、幹部講習会・文化講座・各種スポーツ大会・弁論大会などであった。後に、これらの行事に音楽・芸術・演劇・美術・刊行物などを加え、「福山市青年文化祭」が開催された。他の郡でも郡単位の活動が始まり、青年団活動はますます盛んに行われるようになった。

## 青年学級での テーブルマナー教室



大津野青年団 昭和 48 年（1973）

## ワープロ教室



鞆青年団 昭和 40 年代

## 大津野青年団の機関誌



昭和 47 年（1972）発行

## 卓球場の建設



鞆青年団 昭和 40 年代

## 成人式



市青連主催

## スポーツ大会



市青連主催

昭和 50 年代

## 福山市青年文化祭



大津野青年団の盆踊り

昭和 40 年代

# アンケートに見る青年団の現状

平成 25 年 (2013) 福山市の全公民館 79 館へアンケート用紙を配布し、回答を求め、集計をした。その結果は、次の通りである。

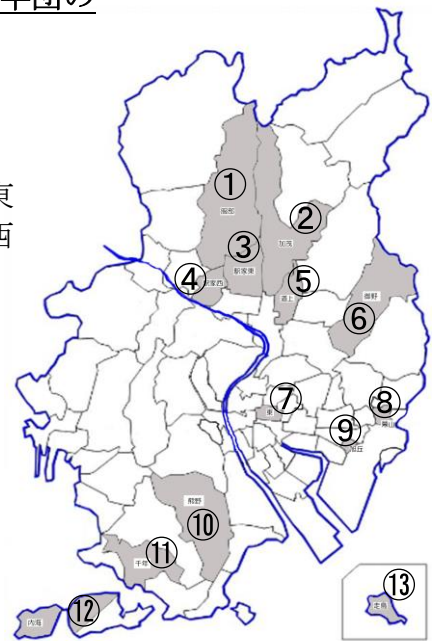
**Q** あなたの学区に青年団がありますか。

ある (16%)	ない (19%)	以前はあったが今はない (65%)
-------------	-------------	----------------------

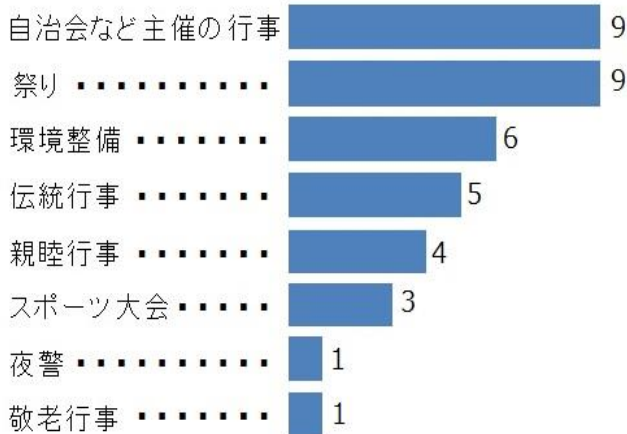
「ある」と答えた学区は、福山市南部、北部、東部である。「ない」と答えた学区は JFE (旧日本鋼管) が創業した 1960 年代半ば以後に市街地化された地域が多く含まれている。「以前はあったが今はない」と答えた学区は 51 と最多で、日本の青年団の現状を表している。

## 現在、青年団のある学区

- ① 服部
- ② 加茂
- ③ 駅家東
- ④ 駅家西
- ⑤ 道上
- ⑥ 御野
- ⑦ 東
- ⑧ 幕山
- ⑨ 旭丘
- ⑩ 熊野
- ⑪ 千年
- ⑫ 内海
- ⑬ 走島



**Q** 現在の青年団の主な活動内容は



## 百年続く敬老会



駅家町服部本郷地区では、青年団主催の敬老会を 100 年以上続けている。写真は、2000 年に行われた尚老会 (敬老会) の開会式の様子。

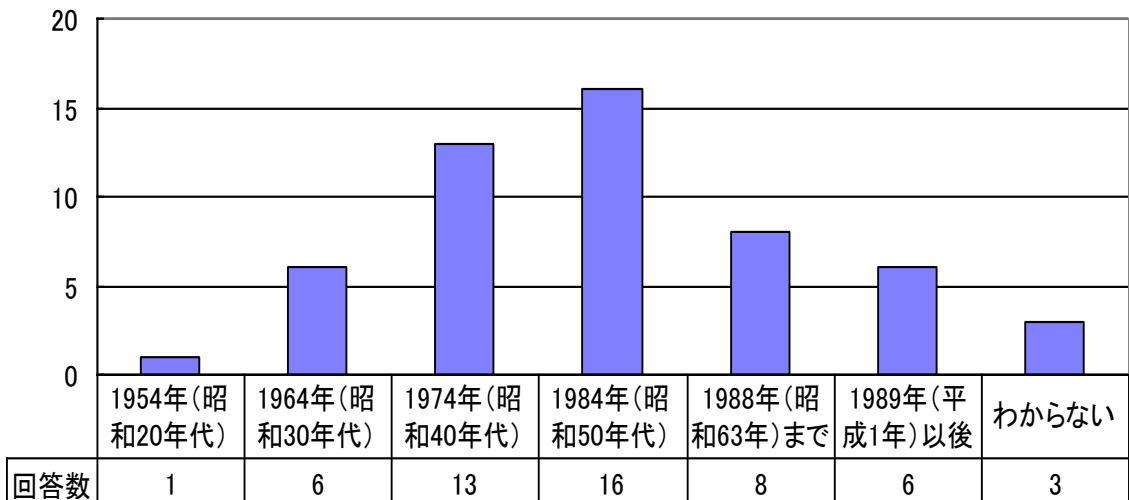
教育制度や地方自治が整備され、農業主体の生活基盤が失われていく昨今の生活様式の変化に伴い、青年団のあり方も活動も変わってきている。団員の人数の減少もあり、かつてのような主体的な活動は難しく、他組織への協賛的な活動で地域貢献している。

なお、現存する青年団では、人数確保のため構成年齢の幅を広げている。

## 祭りに奉納する神辺道上青年団のはねおどり

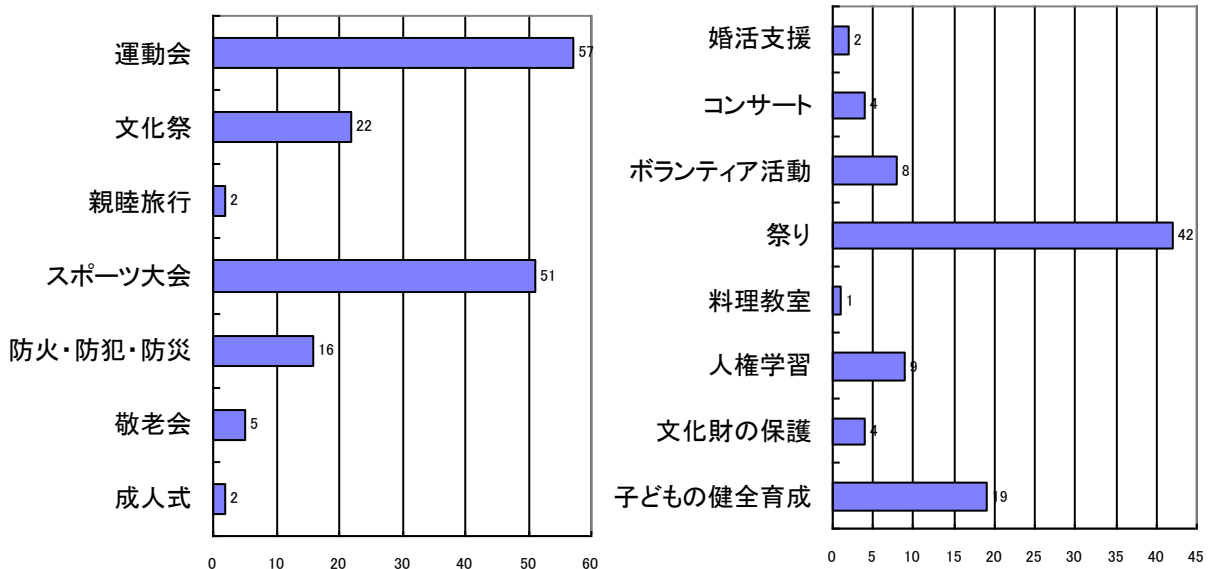


Q 青年団は以前あったが今はないと答えた学区にお尋ねします。  
 青年団はいつ頃までありましたか。



65%以上の青年団が昭和 50 年代（1975 年～1985 年）までの間に消滅しています。  
 この時期は高度経済成長により地方から若者が減りました。さらに、若者の生活様式が地域中心から企業や職場中心へ移り、青年団活動が次第に衰えたものと考えられます。

Q 現在地域で取り組んでいる行事の内、青年層が多く参加しているものは何ですか。



その他、サマーフェスタ、夏祭り、ふれあい祭り（準備もふくめて）とんど、消防団

今の時代に、青年に求められているものは何だと思いませんか。

## 福山市の青年組織の変遷と山本瀧之助年譜

西暦	年	福山市の青年組織の変遷 <span style="color: red;">赤字は全国の動向</span>	山本瀧之助年譜 <span style="color: red;">赤字は参考事項</span>
1868	明治	江戸時代から続く若連中が存在していた	
1873	6		沼隈郡草深村に生れる <span style="color: red;">自由民権、立身出世の世</span>
1879	12		草深小学校入学
1880	13	<span style="color: red;">「東京基督教徒青年会」創始、初の「青年」という言葉</span>	
1881	19		草深小学校中等科卒業 若連中入り
1883	21	沼隈郡神村須江に「青年共進社」結成	戸長役場雇となる 日記を書き始める <span style="color: red;">市町村制公布</span>
1884	22		第14尋常小学校雇となる <span style="color: red;">大日本帝国憲法発布</span>
1890	23	「千年村好友会」結成	「青年会の起こらんことを望む」を書く 『日本人』購読 <span style="color: red;">第1回帝国議会</span>
1891	24		松永尋常小学校授業生
1892	25		常石尋常小学校訓導となる
1894	27	「千年少年会」設立	<span style="color: red;">日清戦争</span>
1895	28		『田舎青年』出版、巻末に全国694の青年会名
1896	29	沼隈郡田島村高島処女会設立	
1899	32		『日本』に「紙上青年会」設立、会員500名
1901	34		滞京8か月。子規を根岸に見舞う
1902	35		常石尋常小学校に復職 『吉備時報』発行
1903	36	「千年村青年連合会」	
1904	37		『地方青年』出版 <span style="color: red;">日露戦争</span>
1905	38	<span style="color: red;">「第5回連合教育会」で若連中改善策を建議</span>	常石尋常小学校訓導兼校長
1906	39	「沼隈郡連合青年会」結成 常石小「少女会」設立	宝田院で青年会主催の養老会を開催（県下初）
1907	40	「第1回沼隈郡青年大会」（今津河原）	
1909	42		『地方青年団体』出版
1910	43	第1回「全国青年大会」（名古屋）へ参加	沼隈郡立実業補習学校巡回講師（翌年訓導兼校長）
1911	44		『良民』発行 文部省囑託
1912	大正元		文部省「青年団体調査委員」委嘱
1913	2		『一日一善』出版
1914	3		鉄道青年会講習を始める <span style="color: red;">第一次世界大戦</span>
1915	4	<span style="color: red;">内務・文部省より青年団体に関する訓令 以後「青年団」</span>	『着手の箇所』出版
1916	5	<span style="color: red;">この頃青年団、3万団体「青年団中央部」組織</span>	『実践一日一善講話』出版 <span style="color: red;">福山市市制施行</span>
1917	6		『模範日』出版
1918	7	<span style="color: red;">「全国青年団連合大会」（行政主導で青年団の全国統一運営決議、以後県の指導）</span>	『早起き』出版 <span style="color: red;">米騒動</span>
1919	8	明治神宮造営青年奉仕団 沼隈郡からも参加	『団体訓練』出版 実業補習学校校長退任



1920	9	先憂会主催「天幕講習会」以後3回まで実施	
1921	10		『少年団研究』出版 第1回メーデー
1923	12		沼隈郡より教育功勞表彰 『処女会の育成』出版 関東大震災
1924	13		「第1回全国巡回講習所講習会」開催以降6年間120回開催 巡回講習の『会報』（のち『青年の天地』と改題）発行
1925	14	「大日本連合青年団」発会 1.5万団体、257万人	『幹部の修養』出版
		「日本青年館」開館	「第20回全国巡回講習所」を新装の日本青年館で開催
1926	15	「青年訓練所」（軍部による青少年に対する軍事教育機関として）	
1929	昭和2	「大日本女子青年団」として改称発足	
1929	4	「青年団綱領」制定。主務官庁 文部省に	世界恐慌
		沼隈郡青年団改善建議書が提出される	
1930	5		文部大臣表彰、県知事表彰
1931	6	8年ぶりに「沼隈郡青年大会」開かれる	山本瀧之助胸像除幕式（日本青年館） 57歳で死去 『山本瀧之助全集』出版 満州事変
1933	8		遺稿『青年団物語』出版
1935	10	「青年学校」（実業補習学校と青年訓練所が合体）	阿伏兔に「山本瀧之助先生頌徳碑」除幕
1936	11	満蒙開拓青少年義勇軍組織	二、二六事件
1939	14	大日本連合青年団を「大日本青年団」に改称	『青年の天地』出版 同窓会誌『若鷹』発行
1940	15		「大政翼賛会」 紀元2600年
1941	16	「大日本青少年団」に統合 1.6万団体、244万人	太平洋戦争
1945	20	敗戦からの立ち直り策、復員青年を迎え入れ地域青年団として再出発	終戦
1946	21	「福山市青年連盟」発足、41単位団	日本国憲法公布
1949	24	全国に連合青年団復活	
1950	25	社会教育法成立	
1951	26	「日本青年団協議会」略称「日青協」結成	
1955	30	「青年学級」この頃、1.8万学級	高度経済成長の始まり
1956	31	「日青協」団員、185万人	神武景気
1960	35	人口の都市集中と進学率急増、10代後半の大半は学生となり、青年団体活動に大きな影響	
1960	36		景気後退・東京五輪
1964	39		「山本瀧之助先生頌徳碑」、移転落成。
1965	40	このころ「青年学級」活発となる 高度成長による豊かさの享受の一方農業青年の都市流出	農村の過疎化が進行。（福山の一次産業従事者12%）
1973	48	青年の集団離れ進み「社会参加」が呼び掛けられる	石油危機、公害問題 高度成長の終焉
1974	49	日本青年館の新館建設の募金活動 市青連主催の成人式。 この頃が青年団活動のピーク	
1976	51		『若鷹』改題 『続青年の天地』復刊

1978	53	「日青協」団員、49万人	
1979	54	「日本青年館」新館建設	
1981	56		
1985	60	「国際青年年」、「日青協」の基本方針 組織の強化拡大、新しい地域づくり、平和運動	『山本瀧之助日記』、日本青年館より出版
	平成		
1998	10		沼隈町図書館に「山本瀧之助記念室」開設
2011	23		「山本瀧之助没 80 年」記念事業 <span style="color: red;">東日本大震災</span>
2014	25	福山市で青年団のある学区は 13 学区（16%） （山本瀧之助研究会のアンケート調査による） 「日青協」構成員約 15 万人、「第 58 回青研集会」への参加 26 道県 105 名、実績報告 32 件	「山本瀧之助生誕 140 年」記念事業
2016	28	新国立競技場建設に伴い「日本青年館」（2 代）解体。現在地から南へ 100m の地に 2017 年 6 月完工予定で 3 代目が新築工事中。 （地上 16 階、延べ床 3.2 万㎡）	福山市政施行 100 周年記念事業の一環として冊子『青年百年』出版



## 山本瀧之助胸像

胸像は 2 体制作され、1 体は東京の日本青年館に、もう 1 体は山本瀧之助生家に贈られた。

作者は、当時新進気鋭（のち日展審査員）の彫刻家、雨宮治郎である。彼は、昭和 5 年（1930）『山本瀧之助功労顕彰会』の依頼を受け、山本瀧之助を訪ね、さらに友人や知人から瀧之助について印象を聞くなどして制作したものである。

日本青年館での除幕式は昭和 6 年（1931）4 月 4 日で、その約半年後、瀧之助は 57 歳の生涯を終えた。

なお、生家に贈られた胸像は平成 10 年（1998）沼隈町図書館（現福山市沼隈図書館）山本瀧之助記念室開設時、入口に設置された。

## 参考文献

文 献 名	作者・編者	発 行	発 行 年
雑誌「良民」 全 107 冊 第 1 巻第 1 号～第 9 巻第 12 号	河本亀之助	東京良民社	明治 44 年 2 月 21 日～大正 8 年 12 月 15 日
青年団活動史 山本瀧之助日記 第 1 巻～第 4 巻	多仁照廣	日本青年館	昭和 60 年 3 月 30 日～昭和 63 年 3 月 30 日
山本瀧之助の生涯と社会教育の実践	多仁照廣	舟橋修	平成 23 年(2011 年) 11 月 7 日
山本瀧之助遺稿集	山本高三	山本高三	昭和 8 年(1933 年) 10 月 7 日
広島県沼隈郡青年会(写真集)	広島県 沼隈郡青年会	広島県沼隈郡青年会	明治 43 年(1910 年) 4 月 22 日
明治神宮御造営工事奉仕記念 広島県沼隈郡青年団	沼隈郡青年団	東京千代田写真	大正 9 年(1920 年)
明治神宮と青年団の造営奉仕	今泉宜子	日本青年館	平成 27 年(2015 年) 10 月 12 日
天幕講習会記念写真帖	先憂会	先憂会	大正 11 年(1922 年) 9 月
グラフ 日本青年館と青年団	日本青年館史 編纂委員会	日本青年館	平成元年(1989 年) 2 月 1 日
福山市史 近世現代編	福山市史編纂室	福山市史編纂室	昭和 53 年(1978 年) 7 月 1 日
大門町誌 大津野の歩み	大門町誌 編集委員会	大門町誌編集委員会	平成 15 年(2003 年) 12 月 1 日
沼隈町誌 写真資料編	沼隈町教育委員会	沼隈町教育委員会	平成 16 年(2004 年) 12 月 1 日
福山市津之郷町誌	津之郷町誌 編集委員会	津之郷町誌編集委員会	平成 24 年(2012 年) 12 月 31 日
福山の古写真集	福山城博物館友の会	福山城博物館友の会	平成 12 年(2000 年) 10 月
広島県満州開拓史 上巻 下巻	広島県民の中国東 北地区開拓史編纂 委員会	広島県民の中国東北地 区開拓史編纂委員会	平成元年(1989 年) 10 月 30 日

## あ と が き

巡回展ぎりぎりまで、原稿校正や出展準備に追われる 3 年間でした。福山市内 10 カ所を巡回するパネル展は、約 5~6 ヶ月間が必要で、それだけに、パネルを早めに準備しなければなりませんでした。

雑誌『良民』をテーマにした 2015 年(平成 27)のパネル展では、1 年 4 ヶ月かけて雑誌『良民』全 107 冊をテーマごとに会員が分担して内容を読み込み、パネルとしてまとめました。

「青年団 100 年の歩み展」パネル作成では、私たちの研究会が 6 年間かけて集めた写真などの資料を、できるだけ多く使ったビジュアルなパネルにすることを目標に、約 9 ヶ月間かけて作成しました。

月 1 回の例会をフルに活動しましたが、研究調査の期間としては十分とはいえ、まだまだ調査もれや研究不足があり、納得のいかないまま期限が来てしまいました。このことを研究課題の一つとして今後とも取り組んでいきます。

2016 年（平成 28）12 月

### 山本瀧之助研究会

上田 靖士	岡崎 正淳	岡田 妙子	岡本 広士	清水 幹男
曾我部 光	田中 加夫	寺岡 美代子	松浦 秀樹	馬屋原 照美
三谷 公	宮本 住逸	村上 訓代		

福山市市制施行100周年記念  
青年百年

発行 2017年（平成29）1月31日  
編集 山本瀧之助研究会  
福山市南部生涯学習センター  
住所 〒720-0311  
広島県福山市沼隈町草深 1889-6



託されたばら  
プロジェクト

100年

今までもこれからも

PASS THE ROSE FUKUYAMA